

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1310 2024/11/07 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照己)



「無料塾」の8年が問いかけるもの

～いわゆる「不登校」とは、教育の重大課題ではないのか？～

約8年前、ひとりのお母さんから相談がありました。「娘がこの春、通信制高校を卒業して大学に行きたいと言っているのですが、どうしたら？」

小・中学校は「不登校」、通信制高校から大学へ

彼女は、小学校・中学校はほとんど学校に行っていなかったのですが、通信制高校には通うこともでき、その中で大学に行きたくなったそうです。

直接会って、「浪人して大学を目指すのであれば、予備校へ行ったほうがいいですよ」と一般的なアドバイスをしました。後日、お母さんから電話がかかかってきました。「本人が予備校に申し込みに行こうとしたのですが、どうしても行くことができません」。とのことでした。

「無料塾」(週1回の英語塾)スタートと模索

そこで、時間的には不十分なのですが、週1回個人的に英語を指導することにして4月から始めました。それから3ヶ月経った6月にそのお母さんと同じ職場のお父さんから電話があり、「大学を受け直したいと息子が言っているのですが、いっしょに勉強をみてもらえませんか？」と言われいっしょに勉強することにして、無料なので(ちょっと安易ですが)「無料塾」と名づけました。

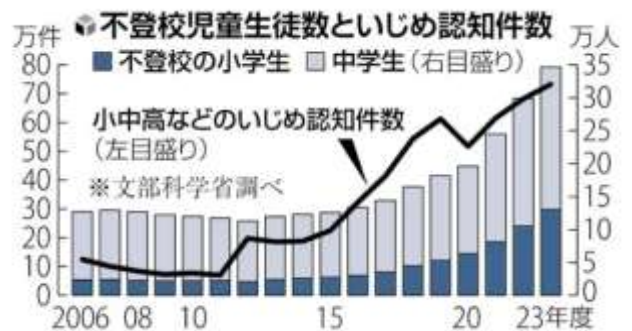
彼女は、全く知らない所には入って行くことはできませんでしたが、個人レッスンを受けることはでき、ほぼ毎週休まず英語を中心に勉強し見事、京都の私立大学に合格しました。不登校傾向のあった彼女が家を出て一人で生活し大学へいけるのだらうかと心配もしましたが、そんな心配をよそに、学ぶ楽しさを身につけ、英語も得意になり、大学院にも進み今は、京都の法律事務所で元気に働いています。そして、受験し直し希望の男子生徒も、希望の大学に合格することが出来ました。

その後も細々とありますが、色々な教育相談を受けたりしつつ活動を続けています。不登校傾向だった16歳の中学2年男子も、翌年3月に中学校を卒業して4月より舟入にある専修学校に進学しました。この生徒は進学後も継続して「無料塾」で英語の勉強に励んでいます。

自分の意志で続けた努力を土台に飛躍する生徒たち

このささやかな取り組みで分かることは、学校へは行けなかったことが、「学ぶ事が出来ない」のではなく、条件を整えば、ほぼ休むことなく「無料塾」には来ていたのです。また、受験し直しの生徒も、予備校に頼らず自分の意志と毎週の塾をペースメーカーにして、休まず参加してきました。その「継続した力」を基礎に、次のステージに挑戦し、更に成長することが出来たという事です。

(望月 照己)



おまけ

▼運は見えない。故に感じなければならぬ。▼勝負に「強い」とは決して準備を怠らず、勝負に正面から立ち向かい、後始末を疎かにしないこと。まとめて言えば「間に合う」態度だ▼再びで恐縮ですが、二〇〇戦全勝の伝説の雀鬼〓櫻井章一氏の言葉です▼今回の選挙はまだ終わっていません。「後始末」とは、声をかけ、お願いをした人たちに対しての、御礼と「現状をどう見るか」をお伝えし切ることだと思えます▼そうしてこそ、来年の参議院選挙までの表面上は激動や混乱もあるでしょうが、「自公政治」の延命に手を貸すのか、新しいルール作りや、裏金問題の徹底説明にどういう態度を取るのか、で本質がはっきりと見えてきます▼歴史はジグザグでしか進みませんし一時期後退することさえ在ります▼しかし、大きな視点で眺めると確かな前進となっている、と分かります。